

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	移植適応多発性骨髄腫に対するイキサゾミブによる維持療法の後方視的解析
研究責任者	血液内科 副部長 塚田 信弘
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>研究の概要: 2006年以来、新規薬剤と呼ばれるボルテゾミブ(ベルケイド)、サリドマイド(サレド)、レナリドミド(レブラミド)の登場により多発性骨髄腫の治療成績は向上しています。さらに、2015年にはポマリドミド(ポマリスト)、パノビノスタット(ファリーダック)が、2016年にはカルフィルゾミブ(カイプロリス)、エロツズマブ(エムプリシティ)が、2017年にはイキサゾミブ(ニンラーロ)、ダラツムマブ(ダラザレックス)、2020年にはイサツキシマブ(サークリサ)が登場しました。一方で適応となる患者さんは限られますが自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法(自家移植)も高い奏効が期待できます。自家移植後の維持療法は再発までの期間を延長することが示されており、その選択肢の一つがイキサゾミブです。</p> <p>今回私たちは、当院における多発性骨髄腫に対する自家移植後のイキサゾミブによる維持療法について後方視的研究を行うことを計画しました。</p>
研究方法	<p>対象: 2016年12月～2020年3月に自家移植を行われた多発性骨髄腫の患者さんのうち、自家移植後にイキサゾミブ(ニンラーロ)の投与を受けた24名の患者さんを対象としています。</p> <p>研究の方法: 診療録をもとに、患者さんの背景、治療成績、副作用等を解析します。</p> <p>倫理的配慮: 個人情報の保護には十分な配慮を行った上で解析を行います。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究への登録を希望されない方は下記までご連絡下さい。参加を希望されない場合でも不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 血液内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者: 塚田 信弘 TEL: 03-3400-1311 FAX: 03-3409-1604</p>